

生きづらさをかかえた 発達障害児・者への支援を考える —さまざまな発達段階における実践と課題—

現代の社会では、高齢化がすすみ人生を長く生きる人びとがふえてくる一方で、「貧困や格差」がすすみ、将来が見通しにくい状況がひろがっています。特に若者の間では不況と就職難が大きな不安要因となり、生きづらい社会となっているのではないのでしょうか。

高機能自閉症およびアスペルガー症候群の人たちは、このような現代の社会状況をより敏感に、より鋭く、感じとっています。本シンポジウムでは、高機能自閉症およびアスペルガー症候群の人たちの生きづらさに焦点をあてて考えていきます。歴史的・社会的に問題をとらえると同時に、医療、教育、福祉など対人援助の視点からひとりひとりの生きづらさと支援について保育園・幼稚園から大学までそれぞれの発達段階における課題を考えていきます。

日時 2010年 7月3日(土) 10:00～16:00

場所 立命館大学衣笠キャンパス 以学館1号ホール

参加費
無料
要事前予約

午前の部：10:00～12:00 基調講演

あいさつ / 徳田 完二 (立命館大学心理・教育相談センター長)

高機能自閉症およびアスペルガー症候群の人たちの生きづらさ

石坂 好樹 (京都桂病院児童・青年期精神科部長)

【プロフィール】 1948年生まれ。京都大学医学部(精神科)を経て、現在、京都桂病院に勤務。精神科部長。日本精神神経学会および日本児童青年精神医学会会員。児童青年精神医学会認定医。京都市内の京都市立東総合支援学校、白河総合支援学校、西総合支援学校で校医を務める。

午後の部：13:00～16:00 シンポジウム

発達障害児・者への支援の実践と課題 —保育園・幼稚園から大学まで—

コーディネータ 村本 邦子 (立命館大学応用人間科学研究科教授)

シンポジスト 青山 芳文 (京都府立盲学校校長 / 前京都府総合教育センター 特別支援教育部長)

● 幼児および小学生(低学年)の時期の支援の実践と課題

竹内 謙彰 (立命館大学産業社会学部教授)

● 小学生(中学年・高学年)の時期の支援の実践と課題

青木 道忠 (大阪発達支援センターばぼろ所長 / 子ども・若もの支援ネットワークおおさか副理事長)

● 中学生・高校生の時期の支援の実践と課題

高橋 知音 (信州大学教育学部教授)

● 大学生の時期の支援の実践と課題

コメンテータ 谷 晋二 (大阪人間科学大学教授) 石坂 好樹 (京都桂病院児童・青年期精神科部長)

※お申し込みは、裏面の申込用紙にご記入の上、FAXにて送信いただくか、

メールの場合は c-soudan@st.ritsumei.ac.jp まで、お名前・参加プログラム名をお送りください。

※申し込みがなくても参加できますが、資料等準備の都合上、できるだけ参加申し込みをお済ませ下さい。

※お越しの際は、公共交通機関をご利用下さい。

主催：立命館大学心理・教育相談センター 協力：立命館大学人間科学研究所

後援(申請中)：京都府教育委員会・京都市教育委員会

問い合わせ先：立命館大学心理・教育相談センター TEL：075-466-3430 FAX：075-466-3499

心理・教育相談センターでは、「人とうまく付き合えない」「子どもの発達で気になることがある」等、さまざまな悩みについてのカウンセリングを行っております。詳しくはお電話にてお問い合わせください。

FAX送信先 075-466-3499

立命館大学 心理・教育相談センター 宛

**心理・教育相談センター 10周年企画 講演会・シンポジウム
参加申込用紙**

申込日／ 年 月 日

フリガナ	
氏名	
所属等	
<input type="checkbox"/> 基調講演（10：00～12：00） <input type="checkbox"/> シンポジウム（13：00～16：00） ※ <input type="checkbox"/> にチェック✓をしてください。	

※ご記入いただいた個人情報は、参加者集約のために使用し、厳重に管理いたします。目的を超えて利用することは一切ございません。

立命館大学 心理・教育相談センター
FAX：075-466-3499